第６講　2025年度 試作問題 第6問

第６問　「倫理」の授業で，「社会と文化に関わる諸課題」から課題を選び，グループで探究する学習を行うことになった。生徒Ｊ，生徒Ｋ，生徒Ｌのグループは，ジェンダーの問題に関心を抱き，「男女が共同して参画するコミュニティ」をテーマにして資料を探しながら意見交換を行った。次の**会話文１**と後の**会話文２**を読み，後の問い（**問１～５**）に答えよ。（配点　16）

会話文１

Ｊ：世界がコロナ禍の中，各国の女性首相の活躍が話題になったね。ニュージーランドの女性首相は40代でリーダーシップを発揮していて驚いたよ。

Ｋ：先駆けは，イギリスのサッチャー首相だね。イギリスは<u>ⓐ女性参政権</u>を獲得するための運動が最も早く盛んになった国の一つでもあるんだよ。

Ｌ：日本は，女性が活躍しづらい社会なのかな。世界経済フォーラムの調査では，2021年の日本のジェンダーギャップは156か国中120位という厳しい結果だよ。ジェンダーギャップとは，社会における男女格差を測るものなんだ。

Ｊ：ある資料には，ジェンダーギャップが性別役割分担と関連していると書かれているよ。男女の役割についての固定観念が，<u>ⓑ女性の社会参画</u>を妨げる要因になっているのかな。

Ｋ：日本では，女性の役割を家事や育児と捉える傾向がまだ強いのかな。女性の経営者や政治家が，他の国と比べてとても少ないよね。

Ｌ：20世紀のはじめに性別役割分担について問題を提起した思想家に，［ア］がいるね。「人は女に生まれるのではない，女になるのだ」という言葉を残したそうだよ。［ア］の考えに基づくと，［イ］といえるかもしれないね。

問１　下線部ⓐに関して，生徒Kが資料を探したところ，女性参政権獲得のために尽力した19世紀の哲学者の自伝をみつけた。次の文章は，この自伝の一部である。この文章を読み，この自伝を著した哲学者の別の著書の一節として正しいものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 29

> 男性を他の人間の法的従属下にとどめるべき理由が見出せないのと同じくらい，女性についてもそうすべき理由が私には見出せなかった。女性の利益は男性の利益と同じくらい十分保護される必要があり，女性を拘束する法律を制定するときに女性が男性と対等に発言できなければ，そうした十分な保護はほとんどありえないと，私は確信していた。だが，女性にその能力が与えられていないことが広く実践的な結果をもたらすという，私が『女性の解放』という本に書いた認識は，おもに彼女[この哲学者の妻] からの教えを通じて得られたものだった。

① 「どの文明社会の成員に対しても，その意志に反して権力を正当に行使できる唯一の目的は，他人への危害を防ぐことである。」

② 「共感は，互いに助け合い守り合うすべての動物にとって非常に重要な感情であるので，自然選択を通じて強められてきただろう。」

③ 「詐欺と略奪を生業とする者たちに，彼らが認めて同意する誠実と正義の生得原理があると，いったい誰が言うだろうか。」

④ 「人間は自由なものとして生まれ，いたるところで鎖につながれている。他人の主人だと思っている者も，その他人以上に奴隷である。」

問２　下線部ⓑに関して，次の文章は，課題探究において規範を論理的に導く際に犯しがちな誤りを，先生が解説したものである。これを踏まえて，**選択肢に書かれた前提（下線部以外の文）が仮にすべて本当であったとしても，結論（下線部の文）が必ずしも論理的には導かれない意見**を，後の①～④のうちから一つ選べ。なお，選択肢に書かれていない前提は考えないものとする。 30

> 私たちは「○○である」という事実のみから，即座に「△△すべきだ」という規範を導きがちですが，これは論理的には誤りです。たとえば，「男子に比べて女子は文系に進む割合が高い」という事実から，ただちに「女子は文系に進むべきだ」という規範を導くことはできません。というのも，この規範を結論として論理的に導くには，ほかに「女子は，文系と理系のうち，男子に比べて女子の進む割合が高い方に進むべきだ」という規範が前提として必要ですし，これが本当かどうかもわからないからです。とにかく気を付けてほしいのは，「△△すべきだ」という規範を論理的な結論として導くときには，前提にも必ず「××すべきだ」という規範が必要だ，ということです。

① 自分は育児に不向きだと思う親もいる。だが，親が育児に消極的であるべきではない。<u>ゆえに，自分は育児に不向きだと思う親も育児に消極的であるべきではない。</u>

② A町では平均して男性のほうが女性よりも筋力が強い。しかし，A町では最近，筋力の不要な仕事が急激に増えている。<u>だから，A町は女性の就労支援にただちに乗り出すべきだ。</u>

③ 社会は就労希望者の就労を支援すべきである。また，子どもを産んだ人の中にも就労希望者は多い。<u>それゆえ，子どもを産んだ就労希望者の就労も社会は支援すべきだ。</u>

④ 人々は自分に合っていると思う仕事をすべきだ。ところでB町には，自分には力仕事が合っていると思う女性も多くいる。<u>したがって，自分には力仕事が合っていると思うB町の女性は，力仕事をすべきだ。</u>

問３　**会話文１**中の空欄 ア には後の人名 a か b，空欄 イ には後の記述 c ～ e のいずれかが当てはまる。当てはまるものの組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 31

空欄 ア に当てはまる人名

a　ヴェイユ

b　ボーヴォワール

空欄 イ に当てはまる記述

c　政治は，暮らし全般に関わることだから，女性らしさを生かした視点を組み込むことは不可欠だ

d　社会的，歴史的につくられた女性のイメージが，女性の政治参画を阻害している

e　少子化という社会問題を受けて、子育ての中心的役割を担う女性の政治参画がますます重要になる

① ア－a　イ－c
② ア－a　イ－d
③ ア－a　イ－e
④ ア－b　イ－c
⑤ ア－b　イ－d
⑥ ア－b　イ－e

会話文２

J：私たちの地域でも，性別役割分担の意識はまだまだ残っていそうかな。

K：ある自治体では，ジェンダーの問題を，ⓒ<u>都市部への人口流出</u>の一つの要因と考えているみたいだね。農村部から転出した若者のうち，地元に戻った人の割合は，男性が 50％，女性は 25％だったみたい。ジェンダーギャップを解消して，女性が活躍しやすい地域を作ることで，人口還流をめざしているんだって。Uターンだけでなく，Ｉターンも増やそうという方針みたいだね。

L：Uターンは地元に戻ることだよね。Ｉターンって何？

J：地域外の人が移住することだよ。大都市圏に住む人の農村部への移住の関心は高まっているみたい。リモートワークの普及もプラスに影響しているらしいよ。

L：さらに「関係人口」というキーワードも生まれているよ。移住者や観光客とは異なるさまざまな形で，地域とつながりをもつ人たちのことを指すんだって。SNS のような情報ツールの拡大は，関係人口の増大をもたらすことが期待されているそうだよ。「関係人口」についての資料を探してみるよ。

K：誰もが暮らしやすいⓓ<u>新しいコミュニティ</u>を実現することが地域の強みになるのかもね。

問４　下線部ⓒに関して，日本ではこのところ地域間の人口の偏りが大きくなっている。都市部から農村部への人口還流の必要性について，生徒Ｊたちは，次の**ア**～**ウ**の考えを，それぞれ後のａ～ｃの思想家の理論を応用して導いた。**ア**～**ウ**は，それぞれどの思想家の理論を応用したものか。その組合せとして最も適当なものを，後の①～⑥のうちから一つ選べ。 32

ア　人口還流の問題に対して何をすべきか，そのことについて多様な立場の人が対等に討議し議論を深める場を形成することが重要である。そのことによって，より一般的な視点からの合意が生み出され，問題解決の手がかりが見えてくる。

イ　それぞれの人が自分の可能性を広げる社会を実現することが重要であり，人は価値があると考える生き方を自ら選択できるような環境を整えていくことが，人口の還流につながるのではないか。

ウ　私たちには居住の自由という権利がある。個人の自由は尊重されなければならない。人口還流を目的として公的資金を投入することは，国家のもつべき最小限の機能を超えることであり，個人の自由への不当な侵害につながる。

ａ　ノージック
ｂ　ハーバーマス
ｃ　セン

① **ア**－ａ　**イ**－ｂ　**ウ**－ｃ
② **ア**－ｂ　**イ**－ｃ　**ウ**－ａ
③ **ア**－ｃ　**イ**－ａ　**ウ**－ｂ
④ **ア**－ｂ　**イ**－ａ　**ウ**－ｃ
⑤ **ア**－ａ　**イ**－ｃ　**ウ**－ｂ
⑥ **ア**－ｃ　**イ**－ｂ　**ウ**－ａ

問５　下線部ⓓに関して，生徒**Ｊ**たちは，生徒**Ｌ**がみつけた次の**資料**をもとに，誰もが暮らしやすいコミュニティを実現するために大切なことについて話し合った。**問４**の**ア**～**ウ**のそれぞれを手がかりに導いた考えとして**適当でないもの**を，後の①～④のうちから一つ選べ。 33

資料

　地域に住む人々だけでなく，地域に必ずしも居住していない地域外の人々に対しても，地域の担い手としての活躍を促すこと，すなわち地方創生の当事者の最大化を図ることは，地域の活力を維持・発展させるために必要不可欠である。このため，地域外から地域の祭りに毎年参加し運営にも携わる，副業・兼業で週末に地域の企業・NPOで働くなど，その地域や地域の人々に多様な形で関わる人々，すなわち「関係人口」を地域の力にしていくことをめざす。関係人口は，その地域の担い手として活躍することにとどまらず，地域住民との交流がイノベーションや新たな価値を生み，内発的発展につながるほか，将来的な移住者の増加にもつながることが期待される。

（出所）　総務省『まち・ひと・しごと創生総合戦略』により作成。

① 関係人口の拡大は，多様な背景をもつ人々のコミュニケーションがさらに重要になることを意味する。異なる価値観をもつ人々が膝を突き合わせ，地域課題を本音で語り合うことが求められる。

② 地域内外の人々が，多彩な関わりの中で，それぞれの可能性を生かすことができるようになることが，関係人口を地域の力とするうえで重要であり，新たな価値創造や内発的発展につながる。

③ 地域に根づいた伝統的な祭礼は，関係人口を拡大するきっかけとなる。毎年地域住民が祭りの担い手として伝統を守り伝えていくことが，地域の活力の増大につながり，新たな価値創造のきっかけをも生み出す。

④ 関係人口の拡大が重要であるとしても，そのための支援を政府が中心になって進めることは，地域内外問わず人々の自由意思をないがしろにすることになる。関わる人々が地域の維持・発展をどう考えているかが重要である。

第 6 講　2025年度 試作問題 第 6 問　解答

(全大問合計で 100 点満点)

問題番号 (配点)	設　問	解答番号	正　解	配　点
第 6 問 (16)	1	29	1	3
	2	30	2	3
	3	31	5	3
	4	32	2	3
	5	33	3	4